

認知症ケアの現場から

特集

きめ細かいケアが自慢の三施設

栄仁会には、認知症ケアに携わる外部事業所が多数あります。その中から、今回は地域密着型事業を担う三つの施設を紹介します。グループホームやデイサービス、そして小規模多機能型居宅介護。それぞれの特徴を浮き彫りにするとともに、三施設に共通する「きめ細かいケア」に光を当ててみましょう。



やまぶきの郷 小規模多機能・グループホーム

野村 砂織 (のむら さおり)

看護師



おおわだの郷 デイサービス・グループホーム

和田 真彰 (わだ まさあき)

精神保健福祉士・ケアマネージャー



でんでんむし デイサービス

檜皮 明奈 (ひわ あきな)

作業療法士・ケアマネージャー

入居者を「家族」と捉える

Q 最初に、「グループホームおおわだの郷」を取り上げます。

和田 おおわだの郷は認知症高齢者のグループホームで9人が1つのグループで生活されており、それが2グループあり、計18人の方が入居されています。この点はあとに登場する「やまぶきの郷」も同様です。デイサービスも併設しています。

入居されている方の認知症の状態はさまざまで、軽度の方は「認知症」言われなければ認知症だとはわかっていくくらいの方もおられます。施設が開設したのは2004年で、もう16年経ちますが、当初からずっと入居されている方もいます。

Q おおわだの郷では入居者を「ファミリーさん」と呼ぶそうですが、たしかにそれだけ長い間共同生活をしていれば、もう家族のようなものですね。

和田 そうですね。家庭的な雰囲気は大切にしています。ファミリーさんのご家族がよく言われることは、「手厚く介護されているようで、いつ訪問しても笑顔でいる。それがすごくうれしい」ということなのです。認知症が進行して認知機能が衰えても、感情は最後まで残りますから、楽しいときには笑顔になります。ファミリーさんが「いい笑顔」をされているときには、スタッフが写真を撮って家族さんに送ったりします。

Q 印象に残っているファミリーさんを挙げてください。

和田 あるファミリーさんが「甲子園に阪神戦を観に行きたい」と言われたんです。リスクもありましたが、みなで話し合って私が付添いで行くことにしました。その方はいまでもそのときのことを懐かしそうに、楽しそうに語られます。「あのとき、(阪神の)関本がホームラン